昭和37年9月26日
第三種郵便物認可
(一) 第761号
みいけ
(毎月二回1日、16日)
昭和39年9月1日 (火)

三池の火をもやせ

成果をあげた 全三池・採炭組長交流会議

（総括）

われわれをめぐる諸情勢がきびしければきびしいほど、内部の団結すなわちお互いの話合いが、いよいよ大切です。

しかも、諸情勢は、たとえば「石炭審陽論」が「石炭不足」に急転したように、いまや「反撃」の好期という側面もある。

かねてから企画されていた全三池の「坑割明組長交流会議」の第一回として、去る八月二三日「採炭」関係の交流がもたれた。

当日は約一〇〇名の炭鉱組長が参加し、炭労本部相沢次長のあいさつのあと、宮川組合長の「石炭情勢」についての説明を受け、三分科会にわかれて午前中一ぱい熱心に討議をつづけ、三代表も各職場に討議をつけて、三井鉱山倉田社長への「抗議電」を決定、次のような「まとめ」を確認して散会した。（以上、敢えて大綱のみとする）

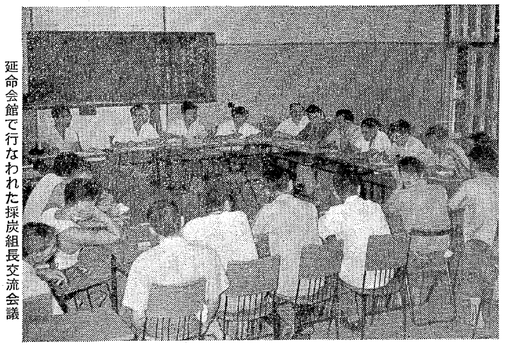
＝まとめ＝

一、各分科会の討議方法に相異があったが、一致した集約として諸情勢とくに「石炭情勢」を正しく洞察とし、三井鉱山の不法・不当な合理化強行にたいし、あくまで「反撃」を求める抵抗を強化し、坑場から災害を絶滅し明るい坑場をどうしてつくり上げるかを、本日を契機に、さらに不炭問題をかめめよう。

二、そのためには、やはり「組長」の任務が重大であることを再確認し、そこに生産の第一線にある採炭組長として、今各支部間の連けいをとり「あしなみ」をととのえよう。

三、そして大綱としていえることは、まず第一に「休憩」は一斉に一時間を「休憩所」でとり、また作業準備は保安点検などを含めて、ぜひ必要であり、さき出とあと出はどんな場合でも同志として共同行動が前提である。

四、要するに「団結・抵抗・統一」という三本線（注・坑内幅を黒ぬりとし、三本の白線をつける三池労組の標識）の具体的なあらゆる問題を、とくに炭鉱問題をかめめよう。



延命会館で行なわれた採炭組長交流会議

現地のたたかい確認 ―総評第二次調査団の活動―

極悪ある医療調査団による「検身」に引きつづき、総評第二次調査団が八月二九・三〇の両日三池の団長納帯浮ヨ二〇名の団員のなかには遠く福島・埼玉・静岡各県評代表や、総評本部内代表を含み、短期間ではあったが別項「訴え」にみるとおり、われわれにたいするあたたかい激励と一切の災害責任本主義の「悪」とする階級的な立場からの積極的な行動に終始し、現地の被災者・遺族・組合員を力づけた。

第一日目には医療調査団と現地報告のあと、熱心な総括検討会がおこなわれ、夕刻とは「不館座り込み」を激励して、夜は四山・大会両地域集会をもった。

第二日午前中には、遺族・被災者・保安委員・健康理事ら関係者との「懇談会」をもち、午後に「集約会」を開き、現地記者団との会見のさき「総評調査団からの訴え」を発表した。

調査団に参加された人たちは、案納団長ほか全員が「こんなにひどいとは思わなかった」「まさに人殺し合理化だ」「中毒患者と遺家族の生活と生命は、あくまでたたかいとろう」「実情をもっと広く訴えるべきだし、一〇月初旬に現地三池で災害対策全国活動者会議を持つもとり」「三井鉱山当局の殺人行為は、こんどの機関決定をまって徹底的に追及する」と語った。

三池労働者は、この激励にこたえなければならないと思う。

総評調査団からの訴え（大綱）

三池大蛇炭第二次調査団は、八月二九・三〇の両日、大災害後一カ月を経た三池労働者・被災者・遺族などの実態を調査した。

二日間の調査でわれわれが知った実態は、災害の原因が無責任・深く、しかもその対策が無責任等しいまでに放置されていること、現在このままで医師不足・ベット不足など、要するに治療対策不十分のままでは、たとえば三池労組傷ガス中毒患者一六六名の検身の結果は、その三分の一くらいが坑場復帰困難とさえ考えられる状況であり、さらに遺族への長期一時金差別などにみるように、全般的な遺族・被災者の生活保障さえ誠意ある対策がとられず、いまだに実効をあげていない。さらに三池労働者に対する差別強制・一方的合理化強行なども目にあまるものがある。

これらの実態は、われわれに大きな衝撃を与え、はげしい怒りと憎しみをまきおこした。同時に、この実態は差別・弾圧にあくまで抵抗し、家族ぐるみ一体となってたたかい抜いている三池の仲間たちの団結と抵抗は、われわれに深い感動と限りない信頼をよびおこした。

われわれは三池の仲間とともに独占資本の冷酷な合理化攻撃から国民と労働者の安全と生命を守るため、徹底的にたたかうことを誓うとともに全労働者に次のことを訴える。

一、ガス中毒・けい肺患者など、および遺族についての完全な治療と就職などのにその生活保障を要求し、そのため全鉱業の労働災害・職業病・交通災害・公害を無くす全国的大斗争を組織しよう。

一、三井鉱山にたいしては、三池大変災の責任追及として「告訴」を含めて徹底的な行動を、院内外において推進する。

一、災害対策全国活動者会議を大牟田で一〇月初旬に開催し、労働者および国民の安全と生命を守る斗争を全国的に発展させ、三池労働者をつつむ積極的な力たかいを展開する。

一、このたたかいの基盤として、われわれは、国家独占下の反合理化斗争の大衆元における徹底的な強化をはかり、国民諸階層との共斗をあらゆる面で確立すべきことを再確認した。

一九六四年八月三〇日

総評・三池大蛇炭第二次調査団

ガス患者の集団検診終る 総評、医療調査団の活動

三井鉱大爆発による被災者の完全治療対策について三池労組はすでに五回の団交で追及しているが専門医による徹底した治療あるいは社会復帰のための訓練はきわめて不十分なままである。

また「集団検診」は過去三回にわたり会社、政府によって実施されるものの、その内容はいっさい明らかにされず、方針も示されないままであり、あまつさえ会社は「ほったらかしの中」とは坑場復帰できる」と主張している現状から、三池労組としては独自の集団検診を実施し、今後の治療方針の確立を期するために総評、炭労の協力を得て医療調査団を現地に迎えることがきた。

医療調査団は慶大保養院長平田先生を団長に、民医連、新医協から加盟する精神神経科専門医各名を中心に編成され、三日に現地入りした。この調査団は遠くは青森、東京、大阪および宮崎、熊本からそれぞれ多忙なところをさいて参加され、また大地鉱業所の協力を受けつつ去る二四日より二九日までの一週間、延命会館において実施された。

今回の検診は、三池労組関係一六六名の通院者のみが対象となったが、検診は徹底して行われ、家族の協力を得てつぶさに調査され、政府、会社の調査にはまったくみられない熱心で科学的な方法がとられたことは特筆すべきことであり「集団検診」を有意義に終了することができ心から感謝したい。

なお二九日には検診結果が集約され、記者会見の席上で別項のような声明が発表された。

現状では 2/3が職場復帰困難

医療調査団の声明（大綱）

三池のガス中毒患者は発作、通院三九名、入院三〇〇名いますが、全日本民主医療機関連合会・新日本医師協会は、総評・炭労・三池労組の要請に応えて、中毒患者の集団検診に積極的に参加しました。

被検者は三池労組に属する外来患者一六六名と家族を同伴させ、社会医学的観点からこの集団検診にとりくみました。

ほんらい一酸化炭素中毒は中枢神経の器質的障害を起すものであり治療が困難であるから、災害発生防止の斗いと最も重視されべきであり、しかもその治療は将来にわたって継続されなければならない。

第一群＝坑場復帰がきわめて困難と思われるもの　五一名

第二群＝坑場復帰の可能性がいまだ不明と思われるもの　六五名

第三群＝坑場復帰の可能性があると思われるもの　五〇名

三池炭鉱会体では約四〇〇名の外来患者が今日まで適切な治療を受けてはいません。ガス中毒に対しては特効薬はなく、災害後もっとも必要である健康回復のための治療としての精神・身体的訓練をやがて一年間も実施しなかった三井独占・政府の責任は厳重に追及されるべきです。

私たちは、時期を失したとはいえ、次のことがすみやかに実施されることを要求します。

一、第二群もふくめ入院治療がのぞましいが、場合によっては昼間病院式の病院に集めて治療的訓練を行う。

一、第三群も昼間病院式の治療を行い、そのうち軽症のものは外来通院してもよい。

一、就労しているものも相日長期間精神神経医師の治療、指導、監視が必要であることを強調します。

なお明らかにガス中毒者と思われるのに私傷病あつかいにされている症例があり、これらはすみやかに労災の適用をうけさせるべきであります。

われわれの政治斗争

＝平和斗争をもつと積極的に＝

平和憲法を改悪したいという自民党と日本独占は、すでに着々とそのなしくずし、地ならしに狂奔しつつ阻止力点をおき、生産点における反合理化斗争と相まって、地域の組織労働者が団結して学習をしながら一般市民に働きかける具体的な行動を緊急にはじめる必要がある。そして来年一月に予定される荒尾市長選挙と同じく年末行なわれる参議院選挙と固く結合してたたかうことが、絶対に必要であり、また絶好のチャンスでもある。

荒尾市長選はどうか

八代田武已氏を市長候補に決定してからすでに三月を経過し、その後著々と組織化が進められているが、当面の目標として

①九月中は各単産の縦割を中心とした候補者の行動を組む。

②全組合員は、組織化の協力者をいない荒尾市長選挙と同じく子定される荒尾市長選挙と固く結合してたたかうことが、絶対に必要であり、また絶好のチャンスでもある。

③全組合員は、組織化の協力者を荒地評事務局に紹介する。

④憲法改悪阻止の学習会と講演会などを開くなど、活発な組織活動を行なう。

以上の方針のもとに荒地評・社会党・政治局・後援会などと、一体となっての活動を展開しているが組合員・主婦会員の積極的な行動を期待する。一人でも多くの者が動くことが勝利のカギである。

では参院選はどうか

全国区の阿具根候補は、炭労・全鉱の組織人員が減少したので異常な苦戦だ、というのが実情である。今回は縦割の外に、熊本・長崎の全県、福岡・山口・北海道の一部の地域割に全力をあげるため、熊本・長崎両県下には各地区ごとの選対を確立して、具体的な運動に入っている。

しかし、これだけでは困難が予想されるので、組合員・主婦会員は、三池をはなれた多くの仲間や子弟に対し、積極的な手紙職術を取ることが必要であり、この活動がどのくらいできるかどうによって最終的な当落のカギになるのではないか、と思われる。みなさんも地域でとに激戦や知人に手紙を出す集いなど、積極的な行動を組み上げよう。

まなぶ
○働くものの月刊学習誌
50円〒6　1年600円　〒不要
労働大学
東京都千代田区大番町1
自治労会館内

みいけ
発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話 3033番 3100
編集兼発行人 澁田紀生

職場の抵抗斗争を強め、抗議ストをその上に積み上げ、遺族被災者の決起にこたえよう!!

組合日誌（8月）

20日　坑内三番方「方別スト」

22日　炭労本部相沢次長、九本毛利総務部長来山、炭労行方動針の討議。

23日　(1)全三池採炭組長交流会議。(2)向坂先生を迎え三池労組・主婦会指導部学習会。

24日　総評・民医連調査団による「C29O患者集団検身」（30日迄）

25日　坑内三番方宮行「方別スト」、俱し流行斗争突入。

29日　(1)坑内外一斉一次二時過ぎ1時50分の時限ストを突入、(2)総評常幹、坑内炭鉱労組（30日迄）

主張

組織的なたたかい

遺族のたくましさ

八月二七日、遺族の「本館座り込み」にたいする三井鉱山の「立退要請」は、三池労組・主婦会全員の激しい怒りとストー体制のなかで、いかなる団体交渉も及ばぬするどくたくましい抗議行動となった。

二七日には、本館内で大事部長ら三名に、二八日には所長・次長ら最高幹部らにたいし「人間の魂の叫び」というような犯しがたい「権威」をもって、かれら経営者を手きびしく撃ってしまった。

それは、かけがえのない最愛の人を殺された者の怒りの渦まきであり、人間の命の尊とさを教え説きながら、しかも絶対的な迫力で押し寄せる嵐であった。

そこには既成の権威、しばられた権威に乱されず、あるものは「人命の尊とさ」にたいする妥協のない確認の追及であった。

私たちは、この抗議の嵐のなかで老獪にあり、か弱くもあるこの遺族たちが、くちべらに「生き残った者への差別」「生き残った者の命の軽視」を考えなければならない。

組織的なたたかいを

このように遺族のたくましい抗議は常に三池労組員全体、その家族全員との組織的なつながりをもち、ガス患者の要望も組織的な行動のなかで科学的に分析された。

「組織的」ということは、人命を無視する生産第一主義に立つ資本の不法に対決する「抵抗」を間接とし、被災者・被圧迫階級たる労働者の「団結」を意味する。「組織的なたたかい」とりの要求は絶対に解決も実現もしないからだ。

三池斗争・第三次会理化・三川鉱大爆発と三池のたたかいは、なにとり組斗にたこのことを証明している。われわれの一切の、衷の、展望というものは組織的なたたかいのなかで築き上げられる、ということを、あらためて確認しよう。

第二組合員に呼びかけ、遺族・ガス患者を守る斗争を真剣に評えなければならない。

組織的なたたかいを

このように遺族のたくましい抗議は常に三池労組員全体、その家族全員との組織的なつながりをもち、ガス患者の要望も組織的な行動のなかで科学的に分析された。

「組織的」ということは、人命を無視する生産第一主義に立つ資本の不法に対決する「抵抗」を間接とし、被災者・被圧迫階級たる労働者の「団結」を意味する。「組織的なたたかい」とりの要求は絶対に解決も実現もしないからだ。

三池斗争・第三次会理化・三川鉱大爆発と三池のたたかいは、なにとり組斗にたこのことを証明している。われわれの一切の、衷の、展望というものは組織的なたたかいのなかで築き上げられる、ということを、あらためて確認しよう。

儲からんことはイヤだまされたと怒る県

政治局　蓮尾信次郎

（3）

私はいま長洲港の埋立地に立っている。沖合いに船乗が起伏して横に連なっている。波音をききながら、熊本での一日内閣で新産都市問題についての電鉱代表の質問と田中大蔵大臣の答弁を脳裏からひ出してみた。

「四十二億円の先行投資をしたが企業はこない。政府は自治体が先行投資（埋立や港湾整備など）したところへ企業が進出するような責任ある政治をやれ」というのである。

大臣は「新産都市は国と地方自治体の共同の責任で行うのが本当です」と答えた。

長洲港は昭和三十三年ごろ航船のしゅんせつのとき出た土砂で埋立た一万七千坪と、本年四月埋立て完成した五万三千坪の計七万坪が港の西側に工場用地として造成されている。五万三千坪の埋立は、八幡製鉄がその労用を負担する協定のもとに行なったと熊本県側は説明している。だが八幡製鉄の首脳部は「そのような協定はしらない」という。八幡製鉄と有明製鉄（八幡資本系列子会社）の意志疎通の不十分さがとうさせたのだろうか。

埋立には（総七千七百四十万円）

とにかく企業というものは勝手なもので儲からないことになるというような理屈をつけて儲かる方に去ってしまう無情なものだ、ということを長洲町の新産都市計画は教えている。

脚光あびるトラック

影薄れる貨車輸送

八月十一日港務所は「地方鉄道法」による営業を開始した。三池労組は地方鉄道法による営業は将来、港務所を三池炭鉱から分離または株式化するのではないかとの危険信号をあげた。貨車による輸送は長距離でなければ利益がすくないし、また短距離はトラックの方がコスト安である。こうした事情のもとに新産都市計画では、化学関係の各社はトラック輸送を主張しており、呉、市の企画室もトラック脱支持のようだ。

さいきん盛にトラック・ターミナルが進出している。これは道路の整備によって運送用道が著しく短縮された（九州従断道路は鹿児島ー福岡間を西、五時間で

坪当り5千円余、5万3千坪、莫大な理立費をかけた長州海浜も有明製鉄は来る気配もない。

ぶ国鉄の特急なみ）ことどこんども整備されること、また製品のマスプロ化などにある。

現在宮浦鉱の石炭の三分の一くらいを三川鉱から搬入している。これは将来、宮浦鉱と三川鉱が抗内でベルトでつながることが当然予想されている。もしそうなれば宮浦鉱から原万田を経て新港埠頭場に行くの石炭貨車は不要になる。そうなれば石の軌道をはずしてしまい、必要なものはトラックで輸送してしまうことになる。

新産都市計画では、船津付近に製煉所の浜工場から大牟田港を経て新港所の浜工場から大牟田港を経て新港所へ通ずる線（約十億円以上）の計画もある。

つぎに、実現性としては将来になるが、大牟田市内白銀陸橋付近から白光小学までの高架線計画である。国鉄の高架になる。予算はあわせて四十億円から五十億円かかり、これに要する費用の半額は地元負担となっている。また高架になった場合には、製作所周囲から電化鉄も結ぶ軌道はとりはずす計画である。

新産都市による臨海道路計画は

荒尾大蛇から訓坊橋（現在の西鉄に新橋をつくる）を経て海岸線を北上し、手鉾付近から東にのびて二級国道に出る。そして国道一交叉国道と西鉄、臨海道路などにふれたが、これら高架線になって踏み切りでの待ち時間がなくなることと西鉄を除外すると、すべて三井グループの生産輸送を一起点として上げておき、四十三年までは国道を中心にほかに一線の整備で間に合わせるべきくらいである。

これには、クス大なカネがかかり（九州従断道路は一メートル当り九万円）大きな問題となろう。現在の三路線整備（日の出町から北

ルは三拡幅ほか）だけでも荒政補助は三倍にへんな投資だ。

さて、新産都市での三井専用鉄道や国鉄と西鉄、臨海道路などにふれたが、これら高架線になって踏み切りでの待ち時間がなくなることと西鉄を除外すると、すべて三井グループの生産輸送を一起点

インターチェンジしようとするものである。これは昭和四十三年までの交通量測定でマスタープラン

として上げておき、四十三年までは国道を中心にほかに一線の整備で間に合わせるべきくらいである。

これには、クス大なカネがかかり（九州従断道路は一メートル当り九万円）大きな問題となろう。現在の三路線整備（日の出町から北

警察署南側四スマ角から北五メートル

"として計画が組まれていることがわかるし、市民生活の安全、近代化が問題点でないことに大きな特徴がある。

以上のように考えると、三井専用鉄道の運営輸送部門のある部分は、いまなにを考えているのだろうか。

虫のいい三池港の公共化

五月二十日三井グループは「三池港を共化した。公共化で三池港の拡張などの整備を行う。これに要する経費約九十億円は国と県が負担する」という。

第一群＝坑場復帰がきわめて困難と思われるもの　五一名

第二群＝坑場復帰の可能性がいまだ不明と思われるもの　六五名

第三群＝坑場復帰の可能性があると思われるもの　五〇名

三池炭鉱会体では約四〇〇名の外来患者が今日まで適切な治療を受けてはいません。ガス中毒に対しては特効薬はなく、災害後もっとも必要である健康回復のための治療としての精神・身体的訓練をやがて一年間も実施しなかった三井独占・政府の責任は厳重に追及されるべきです。

私たちは、時期を失したとはいえ、次のことがすみやかに実施されることを要求します。

一、第二群もふくめ入院治療がのぞましいが、場合によっては昼間病院式の病院に集めて治療的訓練を行う。

一、第三群も昼間病院式の治療を行い、そのうち軽症のものは外来通院してもよい。

一、就労しているものも相日長期間精神神経医師の治療、指導、監視が必要であることを強調します。

なお明らかにガス中毒者と思われるのに私傷病あつかいにされている症例があり、これらはすみやかに労災の適用をうけさせるべきであります。

荒尾市長選はどうか

八代田武已氏を市長候補に決定してからすでに三月を経過し、その後著々と組織化が進められているが、当面の目標として

①九月中は各単産の縦割を中心とした候補者の行動を組む。

②全組合員は、組織化の協力者をいない荒尾市長選挙と同じく子定される荒尾市長選挙と固く結合してたたかうことが、絶対に必要であり、また絶好のチャンスでもある。

③全組合員は、組織化の協力者を荒地評事務局に紹介する。

④憲法改悪阻止の学習会と講演会などを開くなど、活発な組織活動を行なう。

以上の方針のもとに荒地評・社会党・政治局・後援会などと、一体となっての活動を展開しているが組合員・主婦会員の積極的な行動を期待する。一人でも多くの者が動くことが勝利のカギである。

では参院選はどうか

全国区の阿具根候補は、炭労・全鉱の組織人員が減少したので異常な苦戦だ、というのが実情である。今回は縦割の外に、熊本・長崎の全県、福岡・山口・北海道の一部の地域割に全力をあげるため、熊本・長崎両県下には各地区ごとの選対を確立して、具体的な運動に入っている。

しかし、これだけでは困難が予想されるので、組合員・主婦会員は、三池をはなれた多くの仲間や子弟に対し、積極的な手紙職術を取ることが必要であり、この活動がどのくらいできるかどうによって最終的な当落のカギになるのではないか、と思われる。みなさんも地域でとに激戦や知人に手紙を出す集いなど、積極的な行動を組み上げよう。

新産都市の内幕

政治局　蓮尾信次郎

（3）

私はいま長洲港の埋立地に立っている。沖合いに船乗が起伏して横に連なっている。波音をききながら、熊本での一日内閣で新産都市問題についての電鉱代表の質問と田中大蔵大臣の答弁を脳裏からひ出してみた。

「四十二億円の先行投資をしたが企業はこない。政府は自治体が先行投資（埋立や港湾整備など）したところへ企業が進出するような責任ある政治をやれ」というのである。

大臣は「新産都市は国と地方自治体の共同の責任で行うのが本当です」と答えた。

長洲港は昭和三十三年ごろ航船のしゅんせつのとき出た土砂で埋立た一万七千坪と、本年四月埋立て完成した五万三千坪の計七万坪が港の西側に工場用地として造成されている。五万三千坪の埋立は、八幡製鉄がその労用を負担する協定のもとに行なったと熊本県側は説明している。だが八幡製鉄の首脳部は「そのような協定はしらない」という。八幡製鉄と有明製鉄（八幡資本系列子会社）の意志疎通の不十分さがとうさせたのだろうか。

埋立には（総七千七百四十万円

とにかく企業というものは勝手なもので儲からないことになるというような理屈をつけて儲かる方に去ってしまう無情なものだ、ということを長洲町の新産都市計画は教えている。

脚光あびるトラック

影薄れる貨車輸送

八月十一日港務所は「地方鉄道法」による営業を開始した。三池労組は地方鉄道法による営業は将来、港務所を三池炭鉱から分離または株式化するのではないかとの危険信号をあげた。貨車による輸送は長距離でなければ利益がすくないし、また短距離はトラックの方がコスト安である。こうした事情のもとに新産都市計画では、化学関係の各社はトラック輸送を主張しており、呉、市の企画室もトラック脱支持のようだ。

さいきん盛にトラック・ターミナルが進出している。これは道路の整備によって運送用道が著しく短縮された（九州従断道路は鹿児島ー福岡間を西、五時間で

坪当り5千円余、5万3千坪、莫大な理立費をかけた長州海浜も有明製鉄は来る気配もない。

ぶ国鉄の特急なみ）ことどこんども整備されること、また製品のマスプロ化などにある。

現在宮浦鉱の石炭の三分の一くらいを三川鉱から搬入している。これは将来、宮浦鉱と三川鉱が抗内でベルトでつながることが当然予想されている。もしそうなれば宮浦鉱から原万田を経て新港埠頭場に行くの石炭貨車は不要になる。そうなれば石の軌道をはずしてしまい、必要なものはトラックで輸送してしまうことになる。

新産都市計画では、船津付近に三井の製煉所の浜工場から大牟田港を経て新港所へ通ずる線（約十億円以上）の計画もある。

つぎに、実現性としては将来になるが、大牟田市内白銀陸橋付近から白光小学までの高架線計画である。国鉄の高架になる。予算はあわせて四十億円から五十億円かかり、これに要する費用の半額は地元負担となっている。また高架になった場合には、製作所周囲から電化鉄も結ぶ軌道はとりはずす計画である。

新産都市による臨海道路計画は

荒尾大蛇から訓坊橋（現在の西鉄に新橋をつくる）を経て海岸線を北上し、手鉾付近から東にのびて二級国道に出る。そして国道一交叉国道と西鉄、臨海道路などにふれたが、これら高架線になって踏み切りでの待ち時間がなくなることと西鉄を除外すると、すべて三井グループの生産輸送を一起点

インターチェンジしようとするものである。これは昭和四十三年までの交通量測定でマスタープラン

として上げておき、四十三年までは国道を中心にほかに一線の整備で間に合わせるべきくらいである。

これには、クス大なカネがかかり（九州従断道路は一メートル当り九万円）大きな問題となろう。現在の三路線整備（日の出町から北

警察署南側四スマ角から北五メートル

"として計画が組まれていることがわかるし、市民生活の安全、近代化が問題点でないことに大きな特徴がある。

以上のように考えると、三井専用鉄道の運営輸送部門のある部分は、いまなにを考えているのだろうか。

虫のいい三池港の公共化

五月二十日三井グループは「三池港を共化した。公共化で三池港の拡張などの整備を行う。これに要する経費約九十億円は国と県が負担する」という。

第一群＝坑場復帰がきわめて困難と思われるもの　五一名

第二群＝坑場復帰の可能性がいまだ不明と思われるもの　六五名

第三群＝坑場復帰の可能性があると思われるもの　五〇名

三池炭鉱会体では約四〇〇名の外来患者が今日まで適切な治療を受けてはいません。ガス中毒に対しては特効薬はなく、災害後もっとも必要である健康回復のための治療としての精神・身体的訓練をやがて一年間も実施しなかった三井独占・政府の責任は厳重に追及されるべきです。

私たちは、時期を失したとはいえ、次のことがすみやかに実施されることを要求します。

一、第二群もふくめ入院治療がのぞましいが、場合によっては昼間病院式の病院に集めて治療的訓練を行う。

一、第三群も昼間病院式の治療を行い、そのうち軽症のものは外来通院してもよい。

一、就労しているものも相日長期間精神神経医師の治療、指導、監視が必要であることを強調します。

なお明らかにガス中毒者と思われるのに私傷病あつかいにされている症例があり、これらはすみやかに労災の適用をうけさせるべきであります。

われわれの政治斗争

＝平和斗争をもつと積極的に＝

平和憲法を改悪したいという自民党と日本独占は、すでに着々とそのなしくずし、地ならしに狂奔しつつ阻止力点をおき、生産点における反合理化斗争と相まって、地域の組織労働者が団結して学習をしながら一般市民に働きかける具体的な行動を緊急にはじめる必要がある。そして来年一月に予定される荒尾市長選挙と同じく年末行なわれる参議院選挙と固く結合してたたかうことが、絶対に必要であり、また絶好のチャンスでもある。

平和憲法を守るためには、組織労働者が中心となって広汎な国民大衆を組織し、当面の目標を、なしくづし